

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども支援ルーム 美（ちゅら）ぐる		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 20日 ～ 令和7年 2月 1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 20日 ～ 令和7年 2月 1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間のコミュニケーションが活発で、雰囲気も明るい。そのためさまざまな意見やアイデアを交換し合える環境が整っている。	・日々のミーティングで、子どもたちの様子や気になること、家庭や学校からの情報等について職員間で共有している（報告・連絡・相談の徹底）。ケース会議では、職員が悩んでいることや困っていることも課題として発信し、職員全員で考えて意見交換していくことでネガティブな気持ちが軽減し、こどもと職員のよりよい関係性や支援の提供につながっている。	・積極的な研修受講や事業所内研修・事例検討会の充実を図り、多角的な視点を身につけ職員のスキルアップと支援の質の向上を目指していきたい。
2	遊びから学ぶSSTのプログラムや手作りの支援ツールを活用し、個別や集団活動の内容を工夫している。	・日々の個別プログラムはひとつにしぼらず、こどもたちが活動の選択を出来るようにしている。「できた！」を増やして、主体的に取り組むことができるプログラムを提供する。 ・集団活動も内容が固定化しないように、こどもたちの希望を取り入れながら設定している。	・幼児期の特徴や成長発達過程を理解し、個々の特性にに応じて心身の成長をサポートしていく。 ・異年齢による集団活動の場合、活動の内容を年齢や発達状況に応じてパターン分けしたり、アレンジしていく等の工夫もしていく。（未就学～低学年向けの集団活動、高学年向けの集団活動など）
3	保護者との連絡を密にし、毎回、療育の様子を写真で伝えている（見える化）。	・事業所でどんな事をしているのか、子どもの様子や表情を見て安心してもらえるよう写真や動画を共有している。 ・毎月お便りを発行し、活動内容を報告している。 ・日ごろから送迎の際にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。	・事業所の活動・療育内容や子どもたちの様子について、（個人情報に留意しながら）ホームページやSNSでの発信も積極的にしていきたい。 ・開かれた事業所づくりの取り組みをしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等の子どもたちと交流する機会を持っていない。	・地域活動への参加や近隣の施設とのかかわり・連携が不十分のため。 ・新規開所して2年目の新しい事業所で、地域での認知度がまだ低い。	・学校や地域の活動等と連携を図りながら、地域の子どもたちと共に過ごせる時間を設けていくよう努める。 ・事業所で地域行事に参加したり、イベントの開催を行うなど、活動の幅を広げていく。 ・事業所の強み・アピールポイントを明確化し、訪問やホームページでの情報発信といった具体的な活動を行い、地域と関わりを深めていく。
2	父母の会の活動の支援や保護者会の開催を行っていないため、保護者同士の交流の機会が少ない。	・日程調整や人員確保等の問題もあり、保護者会の開催には至っていない。 ・父母会や保護者会に必要性を感じていない保護者もいるため、配慮が必要。	・家族が参加できるイベント等を計画し、保護者やきょうだい同士の交流や活動の機会を設けていくよう努める。 保護者の交流を希望する家族が、気軽に参加できる食事会や行事の企画を工夫していく。
3	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムや家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が不十分である。	・家族支援プログラムについて、情報収集と発信不足。 ・保護者からの個別相談に対するアドバイスや助言はできているが、全体への周知はできていない。	・自治体が案内するペアトレや研修会等の情報についても、積極的に発信していくよう努める。福祉の情報について、ホームページ等でも案内していくようにする。 ・職員も研修を受講する等、家族支援の在り方について知識を深めていく。